

平成 31 (2019) 年度
運営に関する計画

大阪市立矢田西小学校

大阪市立矢田西小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学力面では、学校の落ち着きとともに全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等において、基礎・基本の定着を図る取組を継続してきたこともあり、徐々に効果が表れつつある。しかしながら、まだまだ基礎・基本の定着が不十分な児童も見られる。また、家庭での生活習慣のあり方などでは課題が残る状況である。

このような状況の中で、「確かな学力」をはぐくむために、児童の実態に沿ったきめ細やかな授業法を確立させる必要がある。また、継続して、児童に基本的生活習慣を定着させるとともに、しっかりした規範意識をもたせ、児童の授業に取り組む姿勢の改善や学習意欲の向上を図っていくことが必要である。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 「防災・減災カリキュラム」を活用する。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 安全教育を推進し、防犯・安全な歩行に関する学校行事を年3度の指導を行う。
学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する
- 道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。
- 人権を尊重する教育を推進し、学校行事「人権デー」を年1回実施する。学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関する学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上とする。
- 授業を公開する土曜授業を年間3回行い、保護者・地域が参加できる取組を土曜授業として年間1回取り組む。
- 組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。年3回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

- 英語教育の深化・充実を図り、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ICTを活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年1回行い、ICT機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人々の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 健康週間を実施し、学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 子どもの体力・運動能力向上のために体力づくりに取り組み、学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年2回する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るために防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。
さまざまな場面における交通の危険について理解するとともに、体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを指導する。安全（防犯）の避難訓練を年1回行う。体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年2回指導する。学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

- 道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。
- 様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に1回「人権デー」を実施する。学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関する学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す学校図書館を活用した取組を年3回行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の70%以上を達成する。
- 体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の75%以上を達成する。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である20mシャトルランの調査を3学期にも再度実施し、1学期の結果よりも平均3ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施し、学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上とする。
- 土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間2回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間1回取り組む。
- 組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。年3回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

- 英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動を行い、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
- 世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していくこうとする多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人々の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導し、今年度の学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 70%以上にする。
- なわとびやかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組み、今年度の校内アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。
- 中学校進学への不安軽減のために 6 年生が中学校の行事に参加する取り組みを実施する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 70%以上にする。「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年 2 回行う。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会の実現】については、

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】については、

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。 ○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。 ○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 	
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。 ○安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。 さまざまな場面における交通の危険について理解するとともに、体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを指導する。安全（防犯）の避難訓練を年1回行う。体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年2回指導する。学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する ○道徳の時間を要とし年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。道徳教育を充実させ、自他を尊重する児童を育成し、学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。 	

- 様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に1回「人権デー」を実施する。学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関する学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す学校図書館を活用した取組を年3回行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。
- 体験活動の充実を図り学習に対する興味を高め意欲を向上させ、学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)	
指標 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめを許さない学級・学校づくり」を目指す。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)	
指標 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を80%以上にする。	
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 問題行動の早期発見に努め、多様な支援を行う。(いじめ・問題行動に対応する制度の活用)	
指標 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を出さない。	
取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 不登校や虐待に関する児童生徒の状況を適切に把握し、より丁寧な対応に取り組むことができるよう、児童理解に努める。 (不登校や児童虐待などの課題への対応)	
指標 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	

取組内容⑤【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

災害発生時に、「減災」の考え方を踏まえ、「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」を基に、区と連携した「防災・減災カリキュラム」に沿って、避難訓練などの学校行事を通して防災・減災教育を充実させる。(防災・減災教育の推進)

指標

「防災・減災カリキュラム」に沿って学習を行い、学校診断アンケートにて、「避難訓練などを通して、防災・減災の意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

取組内容⑥【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

安全（防犯）に対する心構えなどの指導を避難訓練で計画的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に児童が理解できるようにする。

さまざまな場面における交通の危険について理解する。（安全教育の推進）

指標

安全（防犯）の避難訓練を年1回行う。

体験型の学習活動を通して安全な歩行のしかたや自転車の利用のしかたを年2回指導する。

学校診断アンケートにて、「交通安全指導や避難訓練などを通して、安全に対する意識が高まった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

取組内容⑦【施策② 道徳心・社会性の育成】

道徳の時間を要とした年間授業計画に基づいた各教科・領域の活動を通じ、相互理解・共感を広げる取組を推進する。(道徳教育の推進)

指標

学校診断アンケートで「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」の項目において、肯定的な回答の児童の割合を学校平均で70%を上回る。

取組内容⑧【施策② 道徳心・社会性の育成】

様々な人権課題に関する学習を通して、主体的に課題解決を図ろうとする態度を養う。（人権を尊重する教育の推進）

指標

人権課題に関する学習成果として学校・保護者・地域に発信する場として、年度に1回「人権デー」を実施する。

学校診断アンケートにて、「人権デーや人権に関わる学習を通して、共に生きるなかまを思いやることが大切であることがわかった。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

取組内容⑨【施策③ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

学校図書館補助員や本校図書館ボランティアと協力して、学校図書館の活用を促す。(学校図書館の活性化)

指標

学校図書館を活用した取組を年3回行い学校図書館の利用を活性化させ、学校診断アンケートで「学校図書館を利用している。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

取組内容⑩【施策③ 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】
体験活動の充実を図り、学習に対する興味を高め意欲を向上させる。
(産業界との連携と学習資源の有効活用)

指標

学校診断アンケートで「社会見学や校外活動を通して、学習に対する興味は高まりましたか。」に関して、肯定的な回答の児童の割合の80%以上を達成する。

大阪市立矢田西小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 ○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である 20 m シャトルランの調査を 3 学期にも再度実施し、1 学期の結果よりも平均 3 ポイント向上させる。 	
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施し、学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上とする。 ○土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間 2 回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間 1 回取り組む。 ○組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。年 3 回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動を行い、児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。 ○ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行い、ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。 	

- 世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していくこうとする多文化共生教育を推進し、学校診断アンケートの「いろいろな国の人との、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導し、今年度の学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- なわとびやかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組み、今年度の校内アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 中学校進学への不安軽減のために6年生が中学校の行事に参加する取り組みを実施する。学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。また、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年2回行う。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入)	
指標 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入)	
指標 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。	

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】
児童一人ひとりの学習理解度及び学習状況等を客観的・経年的に把握・分析し、個に応じた支援を充実させることで、基礎的・基本的な能力、知識・技能を活用する能力の育成を図る。(全市共通テストの導入)

指標

○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。

取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】
全ての学習の基盤となる言語能力等の育成を重視し、主体的・対話的な深い学びを重点に置いた、優れた授業実践や校内研修の実施に取り組む。

指標

平成31年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】
習熟度別少人数指導などの学習形態を活用して個に応じた指導を実施する。
(学校力UPベース事業)

指標

学習効率意欲を高め、校内調査における「国語・算数の授業がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上とする。

取組内容⑥【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】
土曜日を活用し、授業の公開や保護者・地域住民が参加する活動の実施など、開かれた教育活動を進める。(教育活動のための時間の確保)

指標

土曜を活用して授業を公開する土曜授業を年間2回行い、保護者・地域が参加できる「矢田西フェスティバル」を土曜授業として年間1回取り組む。

取組内容⑦【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】
組織的な若手教員の育成に取り組み、教員相互の学び合いにつながる校内研修が実施されるようにする。研究教科を国語科に定め、研究目標を「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫」として取り組む。

指標

年2回の国語科の校内研究授業を行い、小学校学力経年調査における「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

取組内容⑧【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】
基礎基本の英語を大切にする英語教育の深化・充実を図り、本年度から新学習指導要領に基づき、全学年で外国語活動および外国科の学習活動に取り組む。
(英語教育の強化)

指標

児童に対する校内調査で「英語に関する活動が楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

取組内容⑨【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】

ICT を活用した教育の推進をはかり、教員に対する研修を年 1 回行う。
(ICT を活用した教育の推進)

指標

ICT 機器を利用して授業した学年に対するアンケートで「ICT 機器を使用した授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

取組内容⑩【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】

世界における多様な文化を互いに理解し合い、異なる文化を持った人々とともに生き協働していくこうとする多文化共生教育を推進する。 (多文化共生教育の推進)

指標

学校診断アンケートの「いろいろな国の人々の、生活やあそびなどを知る機会がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

取組内容⑪【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】

子どもの体力・運動能力向上に向けて、子どもへの取り組みの改善を図るとともに、体育科の学習において、運動が苦手な子どもや消極的な子どもへの手立てを工夫することを継続して取り組んでいく。(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)

指標

学校診断アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取組んでいる」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を 75%以上にする。

平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査のうち、特に課題である 20m シャトルランの調査を 3 学期にも再度実施し、1 学期の結果よりも平均 3 ポイント向上させる。

取組内容⑫【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】

健康に対する現代的課題への対応を考え、健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、手洗い、うがい、早寝・早起き、朝ごはんの習慣が身につくよう指導する。 (健康に関する現代的課題への対応)

指標

学校診断アンケートにおける「手洗い、うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上にする。

取組内容⑬【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】

なわとびやかけあし週間などを設け、目標を立てることで進んで体力づくりに取り組む。 (子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)

指標

校内アンケートにおける「体を丈夫にするため、すすんで運動に取組んでいる」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上にする。

取組内容⑭【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】

中学校進学への不安軽減や小・中学校の教職員の協力した指導等による学力向上をめざし、「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を推進する。
(小中一貫教育の充実)

指標

6年生が中学校の行事（体育祭や文化祭）に参加したり、中学校の授業体験やクラブ紹介に参加したりする。

理科の指導において中学校教員による授業を実施する。

「小中連携アクションプラン」に基づく小中一貫した取組を年2回行う。

学校診断アンケートにおける「中学校へ進学することが楽しみである。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を70%以上にする。